

# JICAによるミャンマーでの 日本式技術技能者の教育訓練



ものづくり大学 技能工学学部 建設学科 教授  
三原 斉

近年ASEANの経済は、世界の平均を上回り、多様な路線がASEANの安定成長を支えている。ASEAN10は、実質5%~7%程度の成長が続くと予想され、世界の経済成長の中心として期待を高めている。ASEANの中で下位中所得国の発展段階にあるフィリピン、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジアの6カ国では、農村・地方から都市近郊へ低廉な労働力が移動し、労働集約型産業が発展している。インドシナ半島部で陸続きの関係にあり、陸のASEANとも称されるタイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオスでは、2010年10月に「ASEAN連結性マスタープラン」を策定し、交通・情報通信技術・エネルギーなどの連結、貿易・投資・サービスの自由化・促進などの連結、教育・文化や観光などの人と人の連結の強化に取り組んでいる。こうした連結性の強化は、タイと周辺国(特にミャンマー)との間のサプライチェーン深化を通じて陸のASEANの成長を促進することが期待される。特に、ASEANの中で経済成長が最も遅れたミャンマーは、低コスト労働力の活用の余地が大きいラストフロンティアとして投資を集め始めている。また、天然ガスと鉱石を主力輸出品としており、多くの天然資源に恵まれた純輸出国である。ミャンマーは、2011年に軍政が半世紀ぶりに終了して以来、成長率は軍政末期の前年比+5%台から

同+7~8%程度に上昇している。

このような背景の下で、2017年1月に国際協力機構(JICA)の政府開発援助(ODA)による「ミャンマー連邦共和国日本水準の建築技能訓練者育成プログラム普及・実証事業(図1)」がYangon・Yankin・Skills Training Centerにおいて始まった。本事業は、(株)KNDコーポレーションが、ものづくり大学の協力を得てプロポーザル提案し受託したものである。業務受託事業者のKNDコーポレーションは訓練校運営管理、ものづくり大学は訓練校運営と教育訓練企画コンサルタントおよび教育訓練指導を担当し、2016年12月から19年7月31日までの契約期間で、建築技能者の育成と資格認証業務を行っている。教育訓練の内容は、ビルディングおよび木造建築における日本式の施工管理技術と高度な技能の習得を目指すもので、ミャンマーでの現場施工に日本式の手法を採り入れることが21世紀のASEAN圏での日本のゼネコンやサブコンの進展の一助となり、ミャンマー国内の日系企業にも有意義であると確認することを目的としている。

教育訓練を実施する施設は、ヤンゴン市のミャンマー国労働省技能訓練校Skills Training Centerである。カリキュラムは全5期(表1)から成り、そのI期(2017年1月19日~3月10日)はSite EngineerおよびSupervisorの技術・技能

表1 マネジメント教育と技術・技能教育

教育内容	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
第I期 (2017年)	マネジメント教育	■	■	■	■									Supervisor Site manager
第II期 (2017年)	技術・技能教育					■	■	■	■	■	■	■	■	鉄筋・型枠/左官・レンガ/木造建築 各コース
第III期 (17~18年)	技術・技能教育	■	■	■	■							■	■	鉄筋・型枠/左官・レンガ/木造建築 各コース
第IV期 (2018年)	技術・技能教育					■	■	■	■	■	■	■	■	鉄筋・型枠/左官・レンガ/木造建築 各コース
第V期 (18~19年)	技術・技能教育	■	■	■	■							■	■	鉄筋・型枠/左官・レンガ/木造建築 各コース

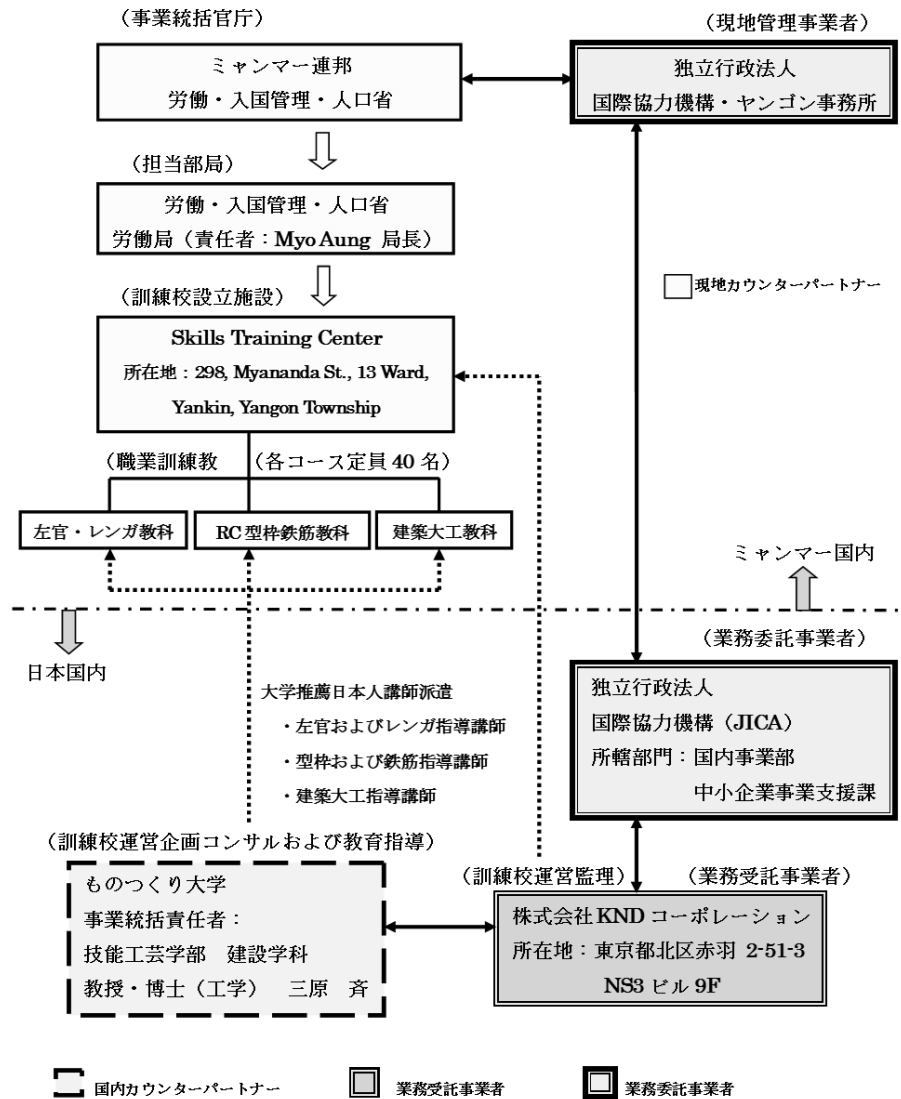


図1 ミャンマープロジェクト概要図

力底上げを図るための「マネジメントコース」として行われた。ミャンマーで同事業によって育成された人材を活用しようとする現地の建設業団体であるミャンマー建設業協会(MCEA)からの要望と、技能訓練コースが始まる前に現地人講師を育成しておくことを狙いとしたもので、鹿島建設(株)、(株)竹中工務店、清水建設(株)、前田建設工業(株)、戸田建設(株)の各施工管理技術者を非常勤講師に招き、ものづくり大学の教員と共に座学の授業を実

施し32名が修了した。

II期(2017年5月5日～8月30日)以降は、Supervisor(上級職長やSite Engineer等を目指す若手の技術技能者)を育成するための「技能訓練コース」に移行した。技能訓練コースは、「RC型枠・鉄筋」・「左官・レンガ」・「木造建築」の3コース(定員は各40名)に分かれ、各専門工事業のエキスパートである、ものづくり大学の非常勤講師が実技・実習を担当し、座学は同学の教員が非常



STC 校舎



STC 実習場



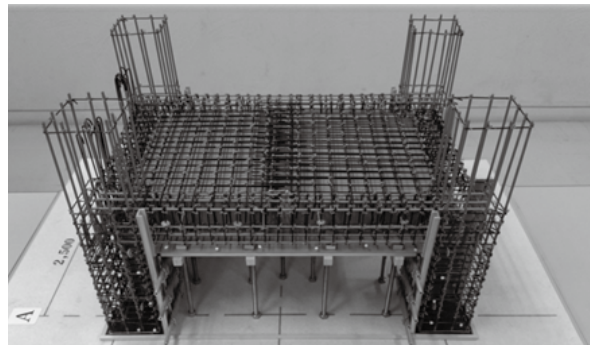
ラジオ体操



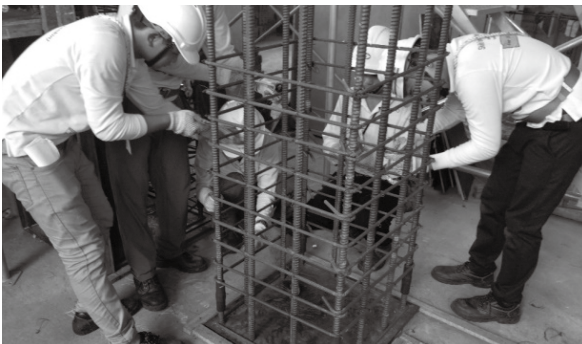
指差確認



座学のように



鉄筋模型を使用した演習授業



RC コース 柱鉄筋組立



RC コース 梁・スラブ組立

勤講師と協働で行う。Ⅱ期の修了者は103名であった。9月5日～16日に掛けては、Ⅰ期・Ⅱ期コースを修了したミャンマー人講師や関係者らが研修のため来日した。日本の建設現場やプレカット工場等を見学すると共に、Ⅲ期以降に向けてカリキュラムの見直しや調整などを行った。次に、技

能訓練コースⅢ期(2017年11月1日から4ヶ月間)は、91名の修了生と2名の訓練参加者の計93人が修了した。さらに、Ⅳ期(2018年5月5日から4ヶ月間)、Ⅴ期(2018年10月から4ヶ月間)に亘って実施する予定である。すべての事業プログラムの終了後、同事業は労働省に移管され、運営され





RC コース 型枠検査状況



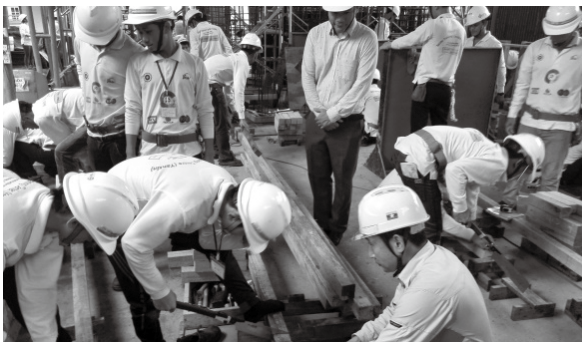
RC コース 鉄筋型枠 実技試験完了状況



左官・レンガコース レンガ積み作業状況



左官・レンガコース 左官塗り壁作業状況



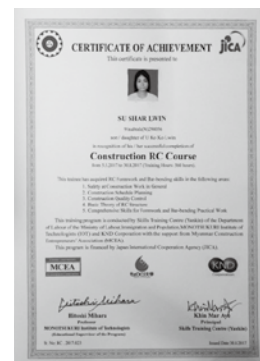
木造大工コース 仕口・継手加工状況



修了演習 プレーンストーミング



修了証授与



修了証

ることになる。

私は、日本側のカウンターパートナーの教育訓練責任者を務めており、修了生たちにはぜひ、ミャンマーの日系企業で活躍してほしいと考えている。そうなれば両国にとってWin-Winの関係になる。日本の技術と技能は、ミャンマーにとって必要な

部分と馴染まない部分とがあると思う。取捨選択しながらうまく活用して、日本の技術を広めてもらいたい。